

社会福祉法人藤雪会 2013 年度事業報告

I 法人本部

(1) 事業の展開

1) 2013 年 4 月 1 日、待機児童が全国的にトップクラスの川崎市高津区に「まんまる保育園」を開所しました。川崎市の土地斡旋により、高津駅徒歩 10 分の登園に便利な土地をお借りし、新築で建設することができました。木の香りのする暖かい雰囲気、初年度から定員に近い子供たちが通っています。法人としてはじめての保育園事業ですが、関係法人（後述の NPO 法人 MOMO が中心になって設立した）である「NPO 法人子ども未来じゅく」が 10 年間で 7 箇所の認可保育園を運営する実績を生かして子育て支援を開始しました。

当法人が保育事業を展開する可能性を開きました。

2) 6 月 1 日に、やはり関係法人（藤雪会の職員グループ「きりん」が設立した）である「NPO 法人 MOMO」が厚木市と横浜市で運営してきた 5 ヶ所のグループホームや有料老人ホームの事業を譲渡されました。もともと法人設立時、単独デイサービスの社会福祉法人は経営が困難といわれて始めましたが、20 年たって、若い常勤スタッフの数も増え、将来性に不安が生じてきました。今回の入居中心施設の受け入れで、経営が安定するとともに、若い職員の異動や合同研修ができ、福祉の質の向上に役立ちます。

3) 福祉業界は、有料老人ホームとデイサービスは競争の激しい事業となっています。当法人の各事業所は、デイサービスセンターおかた以外は、すべての事業で利用者確保が順調に進みました。それぞれの担当者の努力の賜物と考えます。特に、12 月に開所した緑事業所の新規デイサービス「デイのんな」は、「ガーデンハウスもも」や「ポポロ中山」の支援を受けて、毎月利用を増やしています。デイサービスの質と経営の両者にこだわる姿勢が大切であることを示しています。

(2) リスクマネジメント

1) 理事、評議員に川崎、横浜両地域の方の参加、および子ども事業関係者の参加を得ることができました。リスクマネジメントに対応できる理事会、評議員会機能が強まりました。

2) 規約規程類の整備に取り組み始めました。厚木のケアセンターあさひ 1 施設でほぼ全容であった小さな法人から、川崎・横浜とエリアが広がり、有料老人ホームや保育所へと事業もひろがりました。そのため、利用者・家族・

職員も直接顔が見えなくなっていることから、各種の規約・規程類の充実が求められることとなりました。旧来のものを一つ一つ点検し、新たな規程類の整備も開始しました。まだ不足なものもありますが、新年度中に整備を終わる予定です。リスクマネジメント機能を高めます。

3) 法人全体で職員の研修に取り組みました。新人と中堅者対象に法人内職員を講師として実施しました。安全で質の高い福祉を担う人材を育てます。新年度は、次世代リーダー育成に取り組むことが課題です。

(3) 職員の課題

1) 職員の質の向上と量の確保のために、手を尽くしました。

今年度ケアマネと保育士試験の合格者はゼロでしたが、介護福祉士 17 人、社会福祉士 1 人合格しました。受験者総体の合格率は 64.6%と発表されていますが、当法人は 90%の高い合格率でした。合否はとにかく資格取得に努力する姿勢が大切です。今後現場に生かされることと期待します。

2) 一方、職員不足を補うため、職員による友人・知人紹介の仕組みを作りました。全事業所で 7 人の紹介がありました。また、ハローワーク経由で大学新卒者の応募もあり、戸室ポポロに入職しました。

福祉業界一般より職員定着率の高いものの、配偶者控除内で働くことを希望する職員が多く、全事業所慢性的な職員不足です。

3) 法人全事業所を対象に中堅スタッフ研修と高齢者施設対象の新人研修を開催しました。初めての試みですが、他の福祉施設の事業内容や働きかたを知ることで、自らを省みる機会になると思います。今後も続けます。4) 新年度にケアセンターあさひとポポロ戸室間、市ヶ尾ポポロとポポロ中山間で若い職員の異動を組む準備をしました。職員が多様な福祉現場の経験を重ねることで、福祉技術を高めることができれば、次の異動につながります。当該職員に期待します。

5) 法人譲渡による事業利益を職員に還元しました。特に保育園と MOMO グループの常勤職員および扶養制限を越えて働く時間数の多い非常勤者に賞与を出し、意欲を持って働くことのできる環境を作りました。

(4) 情報の発信と公開

1) あさひだより、施設パンフレット、ホームページを法人全体で使う内容に変更しました。ただし、ホームページ以外の編集責任等はケアセンターあさひに依存しており、全体による編集はまだできていません。新年度の課題です。

2) 事業の種類とエリアが増えたので、職員間の情報も途切れるため、全

体をつなぐ「理事長通信」を毎月発行しました。法人と職員の情報の相互関係を作ることが課題です。

3) 全事業所、地域福祉の拠点として、情報の受信が求められます。役所、社会福祉協議会、包括支援センター、他事業所、地域の NPO 団体など多様なネットワークをそれぞれの事業の特徴にしたがってつないできたことで、着実な事業結果となっています。特に有料老人ホームやデイサービスは、競争の激しい事業です。現在のリーダーたちの情報をつなぐ力を次の世代につなげることが課題です。

(4) 寄付を生かす

税額控除法人を取得しました。もともと寄付の多かった入居施設中心の MOMO グループ、さらに保育園の開所に伴う寄付、日常の利用者の寄付が集まり、特に現金は、合計 101 人 3,429,333 円もの寄付が集まりました。それ以外に、10 年前に生前贈与を受けた土地を売却したことで 15,606,500 円の寄付も得ることができました。土地売却の寄付収入は、寄付者の夫の介護費用に当てることにします。今後、他の寄付を社会に生かす方策を検討します。

Ⅱ ケアセンターあさひ事業所

1. 施設報告

(1) 地域福祉としての在宅介護支援活動

24時間対応で総合相談に対応しています。7か所のミニデイサービス支援と厚木市委託事業の配食サービスのコーディネートを行っています。

「ミニデイサービス」

- ① 書道のサークル厚南書友会 (あさひ主催 講師は地域のボランティア)
- ② ビーズ教室 (あさひ主催)
- ③ 友遊会 (旭町5丁目自治会福祉部)
- ④ もみじ (ボランティアグループ古希の会)
- ⑤ さくらんぼの会 (厚木市南地区福祉推進委員会主催)
- ⑥ 道くさの会 (厚木市南地区福祉推進委員会主催)
- ⑦ どんぐり (厚木市南地区福祉推進委員会主催)

(2) 職員状況 新聞での折り込み広告の募集を5回行いました。問い合わせの件数自体が少なく、採用は7名でした。退職者は15名で、退職者の平均勤続年数は4年6ヵ月でした。

一方、開所時からの特徴で、扶養範囲内で働く職員が36人います。扶養をはずれるよう一人ずつ声をかけ、今年は社会保障を付ける職員が2名増えました。どの部門でも職員の確保は緊急の課題となっています。扶養控除の法改正も待たれます。3月末の職員数61名(常勤20、非常勤41)

(2) 事故を防ぎ、質を高める

毎月各部門管理者でアドバンス委員会を開催しています。「どっきり・ハッと」「事故」「苦情」の報告と検証を行っています。ただし、大きな事故の報告、検証については、定例の委員会とは別の仕組みが必要だと考えます。

(3) 施設内部研修

職員の健康や安全にかかわる研修と、介護技術のスキルアップを目的とした研修を行いました。法制度の理解を含めたスキルアップの研修は、毎年実施する必要があると考えています。出席がしやすいようにできるだけ職員会議と組み合わせた日程を組みました。

① 全職員を対象とした研修(2回)

- ・身体改善プログラム体験研修(9月) 腰痛予防のための研修
- ・道路交通法一部改正のポイント(1月) 講師 厚木警察署ヘルパーや訪問で自転車に乗る機会が多いので開催

② ミニ研修(4回)

- ・感染症・個人情報・危機管理・倫理・法令遵守
- ・災害発生時の対応

旭町2丁目自治会長に講師を依頼して大規模災害時への備え等、改めて意識を高めることが出来ました。

③ 新人研修（2回）

- ・介護技術スキルアップ
- ・法人の事業
- ・職員としての心得
- ・「どっきり・ハッと」

④ 常勤若手研修（2回）

- ・新人の育て方
- ・介護保険制度を学ぶ

（5）あさひまつり 今年3年ぶりに「あさひまつり」の開催を決め、4月から準備を進めました。11月2日の当日は、多くの利用者・家族、ヒューマンサポートネットワーク厚木の各団体の模擬店、ボランティア、民生委員の皆様の参加によりお祭りを盛り上げていただきました。

（6）職員会議 理事長の主催のもと全職員が集まる職員会議を隔月開催し、法人、あさひ、おかた全体の事業を理解する機会となりました。

（7）大規模修繕等 自動濾過機と給水ポンプユニット部品交換など設備の劣化による修繕を行いました。WindowsXPの保守対応の終了に伴い、新しくパソコンを入れ替えました。

2. 居宅介護支援事業

医療機関の地域連携室や、地域包括支援センター、サービス提供事業所等との連携で適切なケアプラン作成に努めました。

地域包括支援センターからの困難事例に対しても迅速に対応し自宅での生活が続けられる様にケアプランを作成し在宅生活の継続支援が出来ます。

研修会には積極的に参加し、内部研修では事例検討会を定期的を開催してスキルアップに努めました。

24時間連絡出来る体制を確保し、かつ、必要に応じて利用者等の相談に対応する体制にし休日、夜間も対応しています。

ケアプラン作成件数は、すべての相談依頼を受けて目標を達成しています。

<事業数報告>

1	予防給付ケアプラン作成	月平均	9件（計画13件）
2	介護給付ケアプラン作成	月平均	123件（計画108件）
3	訪問調査	月平均	11件（計画8件）
新規利用者		予防4件	介護62件（予防、要介護）
ケアプラン終了者		41名	

3. 訪問介護

- (1) 派遣時間は月平均 446 時間でした。ヘルパーステーションポポロと合併したことや新規利用者の受け入れを積極的に行い、36 名の新規利用がありました。
- (2) サービス担当者会議に出席し、従来のサービス内容の見直しをすることができました。また、ケアマネジャーとの連絡も密にとりました。
- (3) 利用者の様々な思いを、利用者の立場になって傾聴し、最適なケア目標を設定し、訪問介護計画書を作成しました。定期的なモニタリングを実施しました。
- (4) サービス提供責任者としての利用者宅への訪問は殆どできませんでした。ヘルパーの日々の記録と報告から、利用者の状況の把握に努めました。
- (5) 外部研修に参加しました。そこで得た知識や技術をスタッフ会議で共有し、ヘルパーの技術向上に努めました。
 - ①すぐ使える介護のための接遇マナー (かながわ福祉サービス振興会)
 - ②救急救命士が教える緊急時の対応 (救急車適正利用を広める会)
 - ③バリデーション (かながわ福祉サービス振興会)
 - ④感染症の予防と共存 (厚木市ケアマネ部会・ヘルパー部会)
 - ⑤施設職員のための高齢者虐待防止 (神奈川県高齢者福祉施設協議会)

4. 障害福祉サービス

- (1) 派遣時間は、月平均 287 時間でした。利用回数の多い利用者の長期入院や転居等の理由から 5 名の取り消しがあり目標時間数には届きませんでした。
- (2) サービス調整会議に出席し、相談支援専門員や他事業者との連携を図りました。
心身の状況、環境に変化があるときは随時、相談支援専門員に連絡を密に取りました。
- (3) 研修は、訪問介護と共同で実施しました。
- (4) 12 月に行われた実地指導では文書指導を受け、指導事項について改善しました。

5. デイサービスセンターあさひ

- (1) 開所日数 303 日、日別平均は 23.1 人でした(昨年度末 20.8 人)。
年間平均稼働率は 90%を上回りました。新規、利用曜日増、振替など積極的に受け入れた結果です。
- (2) 新しい特技ボランティア(ギター、歌など)が増えました。保育園児から 70 代後半の方まで多くの方が来所してくださいました。
小田原若者サポートセンター（引きこもり・不登校の方）からの定期的なボランティアを受け入れ支援しました。
研修は、介護体験を含み、小学生から大学生、他事業所の職員も受け入れられました。
- (3) 地域包括支援センターや各居宅介護事業所、他部門との連絡、連携を密にし、福祉用具、配食サービスなどの利用につなげました。要支援の方からの相談が目立ちました。
- (4) ADL 体操、遊びリテーション、手すり体操、ラジオ体操、個別の歩行訓練などを積極的に取り入れ、身体機能の維持、向上を図りました。
- (5) 隔月のスタッフ会議で内部研修を行いました。また、2～3 月のアンケート調査による、利用者介護者の意見を日々のケアに生かせるよう話し合いました。スタッフひとり一人へも丁寧に伝えました。
危機管理については、スタッフ間での連携をきめ細かく行うよう努め、「どっきり・ハッと」を記入・共有することで、意識の向上を図りました。また、申し送り事項にその都度記述、朝の打ち合わせでもしっかり伝えるよう危機回避に努めました。
- (6) デイサービス通信を 2 回発行し、利用者、ボランティア、居宅事業所に配布しました。
- (7) 季節に合わせた行事や食事、おやつを取り入れ、メリハリのあるデイサービスとなるよう努めました。

外部研修

介護保険指定事業者指導講習会	主催：神奈川県介護保険課
防災体験研修会	主催：厚木市消防本部予防課
認知症利用者のリスクマネジメント	主催：あいおいニッセイ(株)
嚥下障害と誤嚥性肺炎	主催：あつぎ食支援ネットワーク
利用者虐待防止研修	主催：厚木・愛甲地区福祉施設連絡

6. 小規模多機能型居宅介護 ゆったり

- (1) 登録目標の 23 人には届きませんでした。(平均 21)「通い」が日々の上限に迫っており、利用者受け入れを阻害しているので、「通い」中心の介護計画を見直す必要があります。
年度内の登録取り消しは 9 名でした。
- (2)「通い」「泊り」「訪問」のサービスを組み合わせることで本人の体調不良、けが、介護者の急用、住宅の改修などで小規模多機能の利点を生かす対応ができました。
徘徊が始まった独居の方への対応では近隣に住む家族と連携を取り、混乱せずに施設入所に移行できるプログラムを計画しました。
- (3) 日課に日常生活動作に繋がる活動を継続して取り入れました。(散歩、ドライブ、買物、園芸等)公園、神社に出かけ、地域の方々との交流に努めました。
- (4) 大きな転倒事故を起こしてしまいました。利用者の変化の共有と対応、フロアでのスタッフ配置、休憩の取り方等について検討しました。今後全スタッフが確認し対応できるよう努めます。
- (5) 4 月に開所したまんまる保育園との交流を行いました。5 月には、兜・紙飛行機を作り園児に送り、11 月の敬老の日にはお返しが届きました。
- (6) 定期的な訪問ボランティアが 4 名来所され、利用者も楽しみにされています。(水彩画、話相手、マッサージ) また、特技のボランティアの来所時には 1 階のデイサービスで共に楽しみました。
- (7) 内部研修：小規模とは、接遇マナーについて、O-157 について、
調理についての留意点、認知症について理解を深める
外部研修：認知症介護基礎講座、認知症介護実践者研修
- (8) 避難訓練を 2 か月に 1 回行いました。
- (9) ゆったり通信を発行しました。
- (10) 外部評価を受けました。
- (11) 隔月で運営推進会議を開催しました。

7. 食事部門事業報告

- (1) 厨房作業報告
1. スタッフの作業内容の変更を随時おこない調理手順の見直しをはかり、効率化につなげました。新しいスタッフの加入・育成が早急な課題となります。
 2. 季節の行事食を取り入れ、旬の味が楽しめる食事を提供しました。
 3. 調理に入る前の手洗いや異物混入を防ぐため、帽子のかぶり方、盛り

付け時のマスク着用など、スタッフ同士で衛生管理を徹底しました。

(2) 配食サービス

- ① 新規利用者の申込みには、居宅介護支援部門と連携し、コーディネートに立ち会いました。
- ② 日常の利用者状況の把握やアレルギーの有無など食事や配達時の細かな対応について、スタッフに申し送りができました。
- ③ 弁当配達時の不在の時には、介護者やケアマネジャーに連絡を取り、再度訪問するなど安否確認を徹底しました。

(3) デイサービス昼食

- ① 季節感のある冷やし中華や親子丼・かき揚げなど目で楽しめるお楽しみメニューを多く取り入れ忘年会行事として、バイキング形式の昼食を提供しました。
- ② メニューや刻み・一口大など、食事形態の多様化により盛り付けに時間がかかり、配膳に遅れるときもありました。主菜、副菜の組み合わせで調理・配膳時間に差が出ないような献立作成を検討します。

(4) パーティ料理・独自弁当

毎年注文してくださるパーティ料理のメニューは前年とは違うものを考え、家庭の手作り料理かつ、栄養やバランスを考えて見た目でわくわくするような盛り付けを心がけました。

- ・ヒューマンサポートネットワーク厚木総会パーティ料理
- ・工科大パーティ料理
- ・ヒューマンサポートネットワーク視察弁当
- ・保育室くれよんお披露目パーティ料理 ・ミニデイさくらんぼ昼食弁当

(5) 外部研修

- ・給食施設従事者講習会 ・県）高齢者福祉施設協議会（調理研修）
- ・厚木市社会福祉施設連絡会（危機管理）

Ⅲ デイサービスセンターおかた事業所

(1) 小規模デイサービスの良さを生かし、お一人おひとりに寄り添い個別ニーズにきめ細かく対応しました。

ご利用者自身が関心あることを行いやり甲斐を持つことができるよう、日課や手作業を取り入れプログラムの充実を図りました。食後の運動としてペダルこぎの他、お手伝いをしていただき役割を持っていただくことを大切にしました。手作業としては、塗り絵、貼り絵、パズル、折り紙などを行っています。

(2) ミニデイサービスを隔月で開催し、近隣の方にお越しいただきました。

体操、遊びリテーション、茶話会を通して地域の交流拠点となりました。

今後も、地域と関わる機会をつくり地域に開かれた施設であり続けます。

(3) 職員の外部研修受講を積極的行いました。リスクマネジメント、スキルアップ、ADL 体操の研修をし、ケアの質の向上に努めました。

(4) 今期は新規利用の登録はありましたが、入院・入所などの理由で取り消しの方が新規の方を上回ってしまい実利用者数は減少しています。ご利用者の増加に向け、おかたのチラシを近隣へ配布し、各事業所へも訪問しコミュニケーションを密にしました。見学、相談は随時ありましたが利用へと繋がっていないのが現状です。

今後も、おかたのパンフレットやたよりの作成・配布を行うと共に、イベント・企画などで地域へのピーアールを行い各事業所との連携を深いものとし利用者の拡大に努めます。

開所日数 249 日 1 日利用者平均 4.9 名

行事
難 4 月 お花見ドライブ 5 月 お出かけ（つつじが丘）避

7 月 七夕 11 月 お出かけ（寒川神社）

12 月 クリスマス会、忘年会 3 月 ひな祭り

フラダンス、オカリナ演奏、民謡と三味線の会 2 ヶ月に 1

回

介護相談員来所 2 ヶ月に 1 回

相川地区民生児童委員来所 月に 1 回

外部研修 給食施設従事者講習会、集団指導者講習会、スキルアップ研修、ADL 体操、リスクマネジメント

内部研修 基本理念と倫理（守秘義務、接遇）、介護技術、リフレクソロジー、コミュニケーション技術、事例検討、マニュアルの見直し、身体拘束について、感染症について、食形態の見直し

IV まんまる保育園

1) 2013 年 4 月 1 日、園児 68 人、職員 23 人で、まんまる保育園がスタートしました。開園した地域は人口が増え続けている行政区であることから毎月のように新入园児を迎える事態になり、年度末には園児数は 73 人（職員 25 人）になりました。数多くの問い合わせがある一時保育については、今年度は人員配置が出来なかったこともあり着手できませんでした。しかし、2015 年度から始まる保育制度の大改正の動向をみながらスタートに向けて準備をすすめていきます。

児童相談所や、地域療育センター等とも連携し、園児一人ひとりの成長を支えました。

各種行事は、保護者や地域の方々の協力を得て取り組みました。

日常保育においては、子ども一人ひとりの人権を保障することを前提に取り組みました。

2) 地域との連携では、近隣の認可保育園の園児や小学校 1 年生との交流を活発に行ないました。

また、同じ地域で障害者の就労支援を推進している民間会社からの依頼で、知的障がい者の研修受け入れ（1 週間、2 人）を行ないました。1 人を非常勤職員（用務）として雇用しました。

3) NPO 法人「子ども未来じゅく」との連携で、施設長連絡会（研修）、予防接種に関する研修などに参加しました。

また、今年度は園内研修（絵本で保育！！）、ケース検討、保育ミーティングなどを重ね、スタッフ一人ひとりの質的向上をめざしました。

リーダーの育成は引き続きの課題です。

4) スタッフ間の報告・連絡・相談の体制づくりを推進しました。少しずつですが日々の保育活動の中で進みました。

5) 保育担当者と食事担当者との連携で、食育プログラムをすすめました。

離乳食メニューの相談、除去食対応など、家庭との連携のなか推進しました。

今後も、食育は、子どもの発達状況を捉え、子の成長を支えるプログラムで進めていきます。

V. サービスハウスポポロ戸室事業所

1. 施設報告

1. 地域福祉の拠点としての活動

入居者の生活や行事など新鮮な情報をホームページで発信することができました。ホームページを見て入居相談に来られる方も増えています。

また、ミニデイサービスや地域別の相談会、季節ごとのポポロ喫茶を開催し、地域との連携を深めています。

2. ポポロの3大祭りの開催

利用者・ご家族・ボランティア・地域・事業関係者など広く参加を得て、ポポロのまつりを開催しました。若い職員たちも非常勤職員も実行委員会を担い、ポポロを地域に知らせることと、利用者にとっていごこの良い施設であってほしいとの思いをこめた祭りとなりました。

それぞれに工夫した厨房職員によるバイキングも毎回好評です。

ボランティアによるイベント、職員によるダンスやマジック、又ポポロ自慢の利用者と職員の合唱サークルの発表も楽しく行われました。

- | | |
|----------|-----------|
| ① 5月19日 | ポポロまつり |
| ② 8月3日 | ポポロ de 花火 |
| ③ 12月22日 | クリスマス |

3. 施設整備等

毎日を安心して暮らしていただくために玄関の段差を無くすなど、ハード面での改善にも取り組みました。体験入居の事業では、多様なニーズにも柔軟に応え、その結果、4名の方の入居につなげることができました。

4. スタッフの資格取得をめざし、今年度7名が介護福祉士資格試験に合格しました。内部では隔月で学習会を開催し、身近なテーマで研修を行っています。外部研修の積極的な参加にはいたらず、課題として残りました。

5. 昨今、有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅で、事業所内のケアマネによる過剰介護サービスが問題になっています。ポポロは設立当初より、風通しの良い施設を目指して、入居者にはできるだけ外部のケアマネージャーやホームヘルパーを依頼することを理念としてきました。現在も入居者38人中、外部事業所のケアマネージャー利用は26人となっています。

2. 有料老人ホーム

- 1) 入居者のトータルな生活支援を目指し、他の福祉施設、医療機関、生活支援サービス事業者との連携をはかり、それぞれに適切なサービスを提供しています。
- 2) 看取りのできる施設をめざして10年目、今年もご本人やご家族の意思で、施設での看取りができました。
2013年度なくなった入居者3人中施設で看取った方は2人でした。
医師の協力があってできたことです。職員たちの介護や看取りの力量も上がっています。

3. デイサービス

周辺にデイサービス事業所が増え、競争が厳しいなか、送迎時間や延長など、利用者・介護者のニーズに柔軟に対応しています。1日平均利用者数が目標の30人を達成することはできませんでしたが、月平均では29.75人で利用者確保につなげることができています。スタッフの力量の向上に努め、質の高いサービスや安心して充実したデイサービスが提供できるように努めました。

4. 訪問介護部門

利用者の現状を把握し、一人ひとりの生活スタイルに合ったサービスを提供しています。10月にはケアセンターあさひの訪問介護部門と統合しました。人員配置の見直しを行い、円滑な運営につなげることができました。

5. 居宅介護部門

「居宅介護事業所ポポロ」を地域に広め、居宅での生活者の相談を広く受け入れました。また居宅サービス事業者、他の関係団体との連携に努め、28名の新規利用者確保につなげることができました。(目標70人 実績67人) 内部職員からケアマネージャーが一人増えました。

月1回開催のミニデイサービスでは在宅生活者の社会参加の場とし、介護保険以外の地域の高齢者の健康維持増進に寄与しています。

6. 食事部門

日々の献立の充実をはかり、利用者の多様なニーズに対応した食事作りをしています。ソフト食、一口大、刻み、とろみ、ミキサー食、好き嫌いなどに日々・毎食対応しました。初めてバイキングにも取り組みました。食の安全と環境に配慮した食事作りに努めました。

VI サービスハウスポポロ中山

1. 施設報告

(1) 緑区中山町の地域福祉拠点をめざしました。

- ① 近隣の65歳以上の方を対象に、毎月第2日曜日に食事会を開催しました。ボランティアの方が毎回5～6名来訪して、楽しいひと時になりました。

上山和太鼓・三線・腹話術・手品・詩吟・ハーモニカ
フラダンス・大正琴・レフターヨガ・尺八・沖縄民謡

- ② 地域の行事（お祭りや盆踊りなど）催しに積極的に参加しました。

職員の参加の催し 名称 自治会の防災訓練

利用者と一緒の参加 名称 お祭り・盆踊り

- ③ 「ポポロ・中山だより」を毎月1回発行しました。

- ④ 地域に開いた「ポポロ中山まつり」を開催しました。

市ヶ尾ポポロやガーデンハウスももの利用者も参加してくれました。

10周年ということで、地域の自治会や医療関係者など協力者をご招待しました。

(2) 災害対策

- ① 自治会の防災拠点委員を受け定例会に参加しました。

- ② 職員が町内の防災訓練に参加しました。

(3) 次世代リーダーの育成

次世代リーダーが地域とのかかわりを強めるために、自治会の行事・定例会などに参加しました。

2. 有料老人ホーム

(1) 経営が安定してきました。

入居希望者が増えてきたため、ショート利用のお部屋を入居に変えて30人の入居者を受け入れています。（昨年28室）

(2) 看取りのできる施設を運営してきました。今年度なくなった方6人中5人を看取ることができました。ご家族、スタッフが最後まで付き添って看取ることができました。

2. 訪問介護事業

内部及び外部より講師を招き職員のレベルアップに努めました。

① 各月で介護教室を開催

25 年 6 月 らくらく安心介護教室（車椅子の移乗・移動）

ベットから車椅子へ移りましょう

25 年 9 月 高齢者の心身の状態を知る

高齢者体験、キッドを使って、日常動作を体験しよう。

25 年 11 月 認知症の人の気持ちと接し方

寸劇 「ご飯はまだかね」「財布がない」

「家に帰りたい」等

②外部からの講師

福祉用具事業者（三和レンタル・パラマウントベット）

25 年 1 月と 3 月（2 回行う）

介護用ベッド・と車椅子の機能を知る

3. デイサービス事業

（1）若い職員が働き続けることができるように、非常勤者 2 人を常勤採用しました。

（2）研修を企画し、内部及び外部より講師を招き職員のレベルアップに努めました。

研修の内容

25 年 7 月 水分摂取について

25 年 8 月 コミュニケーションの方法

外部講師 （三和レンタル・パラマウントベッド）

25 年 1 月と 3 月（福祉用具の機能を知るに参加）

（3）傾聴ボランティアが週 2 回、訪問してくださいました。

（4）ホームページの定期更新を行いました。

4. 居宅事業所

① 居宅介護支援事業所の事務所を緑事業所 1 階に移転しました。

② 利用者増を図りましたが、目標には達しませんでした。

目標 25 人 実績 19 人

Ⅶ 本厚木事業所報告

1. 施設報告

(1) 職員採用について

3回募集を行い、介護職員3名、職員紹介で1名、ドライバー2名採用しました。

退職者は6名です。(介護4、食事1、ドライバー1)

募集をしても応募数が少なくなっています。

3月末現在の職員数37名(常勤6名、非常勤31名)

(2) 研修について

全職員対象に、職員が講師になり「食中毒予防」「個人情報」「体操・レクレーション」「認知症」の研修を毎月1回行いました。

また、昭和大学からの実習生を6名9日間受け入れました。

(3) 地域への情報発信

① ボランティアを積極的に受け入れ、毎月日曜サロン、ミニデイ、喫茶ポロを開催しました。ミニデイサービスは毎月10名位の地域の方が参加しました。

① 毎月 バイキング料理の日を企画し、利用者だけでなく家族、地域のケアマネ、ボランティア、他事業所の方など18名の方が参加されました。

② 年間行事のポロ祭り・夏祭り・クリスマス会は家族とボランティアの参加で楽しく行うことが出来ました。

③ 広報紙は3回の予定が2回しか発行できませんでした。ホームページの更新に心がけました。

(4) ヒヤリハット・事故報告対応

毎月各階のカンファレンスで議題にし、状況把握と対応について検討し共有しました。

(5) 今年度は利用者の入れ替わりもなく、落ち着いた1年でした。

2. グループホーム事業

- ・今年度は空きがなく12名満床を維持しています。 3月末介護度平均2.9
- ・運営推進会議を今年度3回開催しました。2か月に1回開催することが課題です。
- ・入居者の尊厳を守り、季節を感じる外出も4回行い楽しく過ごせるよう支援

しました。

3. 通所介護事業

- ・ 1 日平均利用者数 13 名の目標は達成できない月もありましたが、月ごとの変動で減らないようにケアマネとの連絡を密にしました。
- ・ 季節感のある行事、レクリエーションは計画通り行えました。
- ・ ボランティアの受け入れも増え、傾聴ボランティアも定着しました。
- ・ 昭和大学からの実習生受け入れを行いました。

実績表

	開所日数	実利用者数	延利用者数	利用者数日平均	延ボランティア数
6 月	25	28	307	12.28	14
7 月	27	30	353	13.07	15
8 月	27	30	341	12.63	13
9 月	24	30	313	13.04	17
10 月	26	27	334	12.9	15

11 月	26	28	334	12.84	14
12 月	25	28	319	12.76	15
1 月	24	28	301	12.71	13
2 月	21	29	248	11.8	5
3 月	26	26	312	12.	10

4. 有料老人ホーム事業

- ・ 利用者の自立をめざし、見守りの援助が行えました。
- ・ 満床にすることが課題です。グループホーム待ちでの入居者の受け入れをしています。

今年度 平均介護度 2.3

VIII 市が尾事業所

1. グループホームが地域福祉の拠点となることをめざしました。
 - 1) 地域住民との交流を深めるために、入居者と一緒に積極的に自治会の行事に参加しました。
 - 7月 荏田西プチ花火大会
 - 8月 荏田西ふるさとまつり
 - 11月 荏田西防災訓練
 - 2) 前年度に地区社協と連携して行っていたバイキングの食事会を今年度からは自治会との協力にして11月より毎月開催しました。地域のお年寄りが毎回10名以上参加され、市が尾ポポロの入居者との交流が深まりました。初めて参加された方からは「グループホーム」の仕組みが理解できた、高齢者福祉サービスを知る機会となった、などの嬉しい声も聞けました。毎回、歌や体操、また、ボランティアの方々によるフラダンスなどの催しも併せて行いました。そのなかから定期的なボランティアも生まれています。
 - 3) グループホームの運営推進会議に、今年は新しい民生委員や自治会役員の参加があり、グループホームを知っていただく機会になりました。
 - 4) 11月には荏田西地区の子ども会との交流として、市が尾ポポロの入居者が、ハローウィンパーティーのおやつを子ども達に配りました。
 - 5) 家族会を3回開催しました。毎回多数のご家族が参加され、入居者の方々の日々のご様子の報告や積極的な意見交換などが出来ました。
2. デイサービス事業
 - 1) 月曜日から土曜日まで1日3名までのデイサービスをおこなっており安定的な利用を目指しましたが、周知度がなかなか上がり来年度に課題を残しました。通常の認知症デイサービスに比べ単位数が低い利点をもっと知らせていきます。
 - 2) デイサービス利用の方の都合にあわせて、早朝から夜までの時間延長の独自のサービスを提供しました。また、家での困りごとなどの相談にも応じ適宜情報を提供しました。
3. 看取りについて

暮れに1名のご入居者の看取りをおこないました。主治医、訪問看護、ご家族との連携をはかり、ご本人が望まれる最後を迎えていただくことができました。市が尾ポポロを終の棲家を選んでくださったことに寄り添うことができました。
4. 職員について

1) 若いスタッフのスキルアップのため、中山事業所との交換研修を8月の1ヶ月間行いました。

2) 職員のスキルアップのために勉強会や研修を行い、今年度は1名が介護福祉士の資格を取得しました。

5. 広報活動

今年度は広報の強化を目指しましたが、ホームページの更新やデイサービスを広めるリーフ作成や広報活動が不十分で来年度の大きな課題です。

IX 緑事業所

1. 小規模多機能型介護 ガーデンハウスもも事業所

(1) 小規模多機能の特性を活かし柔軟な対応、質の高いサービスの提供に努めました。

日平均 通い：9.3 人(早朝迎え、夕食後の送り、予定以外の通い、滞在時間 12 時間以上の方など)

訪問：9.8 回(通院介助、院内介助、買い物同行、デイ及び外出準備、電球交換、緊急呼び出し対応)

泊り：4.16 名(長期、病院から自宅生活までの復帰支援、ご家族の介護負担軽減、主たる介護者の緊急事態時、介護認定決定までの一時利用)

(2) 3月末で目標定員 25 名を達成することができました。

(3) 12月にデイのんなが開所し、1月より「もも・のんな便り」を月一回発行し、地域や居宅事業所への配布、ホームページの更新などの広報活動も出来るようになりました。しかしながら肝心の自治会加入にはいならず今後の大きな課題です。

(4) 法人内他施設との連携が進んでいます。

ポポロ中山、戸室、ポポロ本厚木への緊急入所を受け入れていただくこと

- ができ、利用者ひとり一人の適したサービスの提供や紹介ができました。
- (5) 「ひやり・はっと」を活用し、苦情を含めた報告と検証、対策をとり、
事
故防止につとめました。
- (6) 毎月第2土曜日を防災の日と決め防災訓練を実施しています。
- (7) 内部研修
- ① 個人情報と守秘義務について
 - ② 誤嚥、誤飲の予防と対策および緊急時対応

月		6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
登録人数		22	23	23	23	23	22	22	23	24	25	23
通い	実利用者数	21	21	21	19	20	18	18	20	19	20	19.7
	延べ利用者数	266	285	292	285	291	285	295	299	250	286	283.4
	利用者数日平均	8.9	9.2	9.4	9.5	9.4	9.5	9.6	9.6	9	9.3	9.34
泊り	実利用者数	7	7	10	5	10	9	8	8	6	5	7.5
	延べ利用者数	108	127	138	136	126	103	109	119	107	84	115.7
	利用者数日平均	3.6	4.1	4.5	4.5	4.1	3.5	3.1	3.8	3.8	2.7	3.77
訪問	実利用者数	14	15	15	15	15	14	14	15	14	18	14.9
	延べ利用者数	198	359	213	234	233	223	192	220	208	304	238.1
	利用者数日平均	6.6	11.6	6.9	7.8	7.5	7.5	6.2	7.1	7.4	9.8	7.84
平均介護度		2.2	2.5	2.5	2.4	2.5	2.4	2.5	2.5	2.5	2.6	2.46
平均年齢		89.4	88.9	88.6	89	89.1	88.9	89.1	89.1	88.9	87.7	88.8

2. デイのんな

1) デイサービス事業

- ・ 2013年7月より準備を始め、2013年12月1日開所しました。
- ・ 事業規模：小規模、定員：10名、開所日：月～土、9:30～16:40
- ・ 毎月4名の新規利用者を目標とし、1月～3月で14名(月平均4.7名)の登録を受け入れました。今後も、更なる利用者増を進めます。
- ・ 地域のケアマネジャーへの働きかけと地域の方々を対象とした行事の開催で、新規デイサービスの開設をアピールしました。
- ・ 利用者の担当ケアマネジャーからの新規問い合わせが利用につながりました。現在の利用者の満足が、利用拡大の大切な要素であることを実感しました。

平成 2013 年度 登録者数目標と実績

		2013 年 12 月	2014 年 1 月	2 月	3 月
登録	目標		8 名	12 名	16 名
人数	実績	3 名	8 名	15 名	17 名

2) 介護保険外サービス

- ・ 介護保険外の「時間延長サービス」「宿泊サービス」をアピールしました。
- ・ 「いつものデイサービスでいざというときに宿泊できる」という安心が契約に結びついた例が 5 件ありました。
- ・ 「時間延長サービス」は週 4 回利用の方が毎回利用され、「宿泊サービス」は 2 泊 3 日の利用が 1 件ありました。

3) 職員配置 定員 10 名の人員基準を満たす職員を配置しました。
(今年 6 月の定員変更(18 名)に向けて、看護師と介護員を増員します。)

4) 広報

- ・ パンフレットを地域配布し、併せて「もも・のんな便り」「デイのんなミニ通信」「食事メニュー表」を持って、居宅介護支援事業所を毎月 3 回以上訪問しました。
- ・ ホームページを 2 回更新しました。